

## 令和6年度 教員による授業自己評価

1. 実施月:令和7年1月

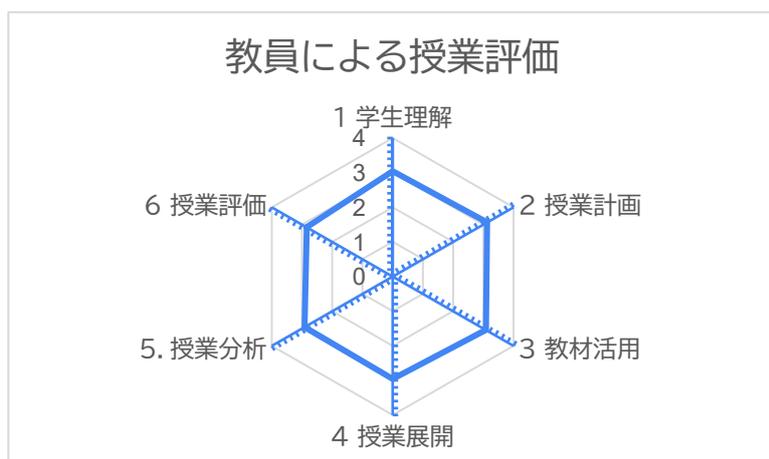
2. 実施対象者:9名

副校長	1
教務主任	1
実習調整者	1
専任教員	6
合計	9

3. 回答数:8名

4. 調査結果:4該当する 3どちらかといえば該当する 2あまり該当しない 1該当しない により評価

	平均評価	最大値	最小値
1 学生理解	3.0	4	2
2 授業計画	3.1	4	2
3 教材活用	3.1	4	2
4 授業展開	3.0	4	2
5. 授業分析	2.9	4	2
6 授業評価	2.8	4	1



5. 教員による学生評価・自己評価を踏まえた今後の課題と対策

- 固いお話で学生にとっておもしろくない内容であっても興味を引くような授業にしていきたい。アイスブレイクをせずにいきなり授業に入るのはやめる。
- 授業資料に関しては都度見直している。基礎Ⅱ実習に関して中間評価を取り入れるなど昨年の評価から見直しもできた。しかし授業に関しての中間評価ができていない。授業の最後に国家試験問題を数問取り入れることは形成的評価にも繋がられているため今後も継続していきたい。自己の課題としては主体的に学べるような発問の仕方やファシリテーションスキルを磨くことである。
- 学習効果を意識した授業内容、展開に努めているが、個々の学生をみて、その学生にあった教授が不十分なので今後の課題としたい。
- 課題は授業の時間配分を適切におこなうこと、対策は事前準備に時間をかけ調整すること
- 目の前の授業に必死でなかなか振り返りまで到達できない現状ですが、少しずつ評価を振り返り見直していきたいと思う。
- 新規行った授業の評価・修正
- 今年度は国家試験出題基準を抑えることに必死で、項目が莫大になってしまい学生の興味を引くことができず、双方向の講義にはなりにくかった。もう少し学生の理解度を踏まえ、必要最低限の学びから実習までで出題基準を盛り込めるように調整が必要である。
- 教育理念、目的、目標の達成に向け科目の授業編成をしているが、学生が主体的に考える効果的な授業、演習方法を行えていないと感じている。国家試験出題基準を網羅することも大事であるが、限られた時間をどう組み立てると効果的なのか、学生のレディネスに合わせて振り返り、授業内容、方法を見直し組み立てていきい。リアルな場面(ペーパー事例ではなく)を作り、気づかせ、解釈して対応できるパフォーマンス課題・評価を作成し、演習を行っていきいたい。